



私たちはこの笑顔を守ります

「厳原幼稚園 運動会」



9月定例会あらまし

9月定例会は、9月8日から9月18日までの11日間の会期で開かれました。今定例会では、令和元年度一般会計歳入歳出決算ほか令和2年度一般会計補正予算等46件が提出され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり承認、可決、そして閉会中の継続審査となりました。

市政一般質問は、9人が登壇し、活発な議論が展開されました。

- ◎主な議案
- 専決処分の承認を求めることについて承認予算案4件
- 令和元事業年度公益財団法人厳原愛育会経営状況報告について等、報告8件
- 令和元年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定について等、閉会中の継続審査8件
- 令和2年度対馬市一般会計補正予算(第8号)等、補正予算案4件
- 対馬市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について等、条例改正案9件
- 対馬市犯罪被害者等支援条例について等、新規条例案1件、廃止条例案1件
- 辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について等、議決案8件
- 人権擁護委員候補者の推薦について諮問案1件
- その他、陳情1件、意見書案1件

委員会審査報告

議会において、提出された議案等を慎重に審査するため、所管の常任委員会に付託することができ、各委員会は、付託された議案等を詳しく審議し、議案等の可否を採決し、委員会としての意思を決定します。委員長は、審査報告書を議長に提出し、本会議において報告をします。今定例会においては次のとおり審査報告がされました。

総務文教常任委員会

委員長 坂本 充弘

◎付託された案件(3件)

- ①令和2年度対馬市一般会計補正予算(第8号)
- ②対馬市犯罪被害者等支援条例
- ③新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書の提出について

◎審査内容

○総務費、衛生費、消防費、教育費に係る補正予算が計上され、航空事業者経営支援負担金、交通事業者事業継続等支援事業奨励金、テレビ会議システム構築委託料、学校浄化槽及び小荷物専用昇降機修繕に係る工事請負費等について、また、犯罪被害者等の権利利益の保護を図ることを目的とした対馬市犯罪被害者等支援条例について、そして、地域の実情に応じた行政サービスを安定的に提供するため、地方税・地方交付税等の一般財源総額の確保を国に求める意見書について審査を行いました。

厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

◎付託された案件(1件)

- ①令和2年度対馬市一般会計補正予算(第8号)

◎審査内容

○総務費、民生費、衛生費に係る補正予算が計上され、個人番号カード交付事業補助金、社会保障・税番号制度システム整備費補助金、生活保護適正化事業補助金、地域医療介護総合確保基金事業補助金、乳児を対象としたロタウイルスワクチンの定期予防接種に係る委託料等について審査を行いました。

産業建設常任委員会

委員長 長郷 泰二

◎付託された案件(2件)

- ①令和2年度対馬市一般会計補正予算(第8号)
- ②対馬市立博物館条例

◎審査内容

○農林水産業費、商工費、土木費、教育費、災害復旧費に係る補正予算が計上され、農林業体験型施設運営継続助成金、しいたけ生産活動継続支援補助金、マグロ養殖出荷調整支援事業、学校給食水産物提供事業、7月8月の豪雨により被災した道路、河川の復旧工事費、しま旅滞在促進事業負担金等について、また、趣旨や位置、実施する事業に関する規定等、博物館の運営に必要な基本的事項を規定した対馬市立博物館条例について審査を行いました。



審議の様子(写真は産業建設常任委員会)

12月定例会のお知らせ

令和2年第4回定例会は、12月8日(火)に開催を予定しています。

※日程は、12月4日に開催される議会運営委員会で協議された後、ケーブルテレビ、議会ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

一般質問 ここが聞きたい

9月定例会一般質問 9人の議員が市政に対する一般質問を行いました。



一般質問とは

議員が議長の許可を得て、市長等に対し、市の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等についての所信や疑問を質し、報告や説明を求めるものです。

一般質問を行う場合は、通告書に要旨を記入し、事前に議長に提出します。

一般質問の時間は質問と答弁を合わせて50分以内としています。

◆「宗助国公」騎馬像と「ゴースト・オブ・ツシマ」との融合による新たな観光資源の創出について
(伊原) 元寇の激戦地小茂田浜神社に「宗助国公」騎馬像が寄贈された。本市の景勝地や観光名所を世界の人々に広げるため、北部から南部に至るまで現代社会の数々の観光名所をクリアし、最終的に「宗助国公」騎馬像に到達するまでの時間を競うゲームソフトができないか伺う。
(市長) ゲームアプリ「ゴースト・オブ・ツシマ」は爆発的な大ヒット商品で、その制作会社や販売会社と協議し、県や観光物産協会と合同で本市のプロモーションビデオを制作し好評を得ている。「宗助国公」騎馬像は対馬の歴史顕彰に大きく貢献するものと期待しており、聖地巡礼来島者を迎え入れる準備に取り組みたい。



伊原 徹議員

◆国内外観光客の目標値の考え方と、国内外観光客数の設定について
(伊原) 平成30年末の国内外観光客数54万人から5年後に60万人に設定されたその根拠を伺いたい。
(市長) 第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、令和7年度の60万人の目標値設定内訳は、国内20万人、韓国32万人、その他諸外国で8万人で設定した。

◆新たな国内観光客誘致への施策は
(伊原) 国内観光客の来島を目指すための進捗は、
(市長) コロナ禍により観光産業に影響があり、目標値達成値まで厳しい状況。韓国以外のインバウンドにも積極的に取り組み、さらに、本市の特産物のアナゴ、アカムツや対州そばなどの食の魅力情報発信とおもてなしの心で観光PRに努めたい。



波田 政和議員

◆南部地区道路整備について
(波田) 現在まで南部地区（安神から浅藻まで）の道路整備について重要性や必要性の議論をしてきた。本市の計画では実現性に乏しく、早期実現可能な計画に向け、県と再協議を行う考えはないか伺う。

(市長) 現在、安神工区、堂坂線の整備、その他5路線の整備を進めており、予算の確保が最大の課題である。県においても現在施工中の整備箇所の早期完成に向け努力いただいているが、かなりの事業費また事業期間を要する状況で、早急な対応は厳しいと考えている。

◆豆酸地区バス待合所の整備について

(波田) 高齢者も年々増加傾向にあり、交通弱者も増え、利用される市民の方々への配慮が今以上に必要と考えることから、豆酸窓口センター付近に屋根付きバス待合所の整備ができないか伺う。

(市長) 現在、豆酸出張所バス停の利用者は数名であり、待合所の新設は困難であるが、今年度作成を進めている南部地域アクションプランの事業と併せて検討していきたいと考えている。

◆公衆トイレの設置について

(波田) 多くの市民がジョギングやウォーキングで利用している（久田道交差点からお船江大橋）厳原臨港道路沿いに公衆トイレの設置ができないか伺う。

(市長) 地域の利用者だけではなく観光客も含めた規模や処理能力を検討する必要があるため、将来的に駐車場や展望所、販売所など、地域住民や観光客が訪れる演出の場として一体的に整備する財源を確保し、計画的に対応していかねければならないと考えている。



小島 徳重議員

◆観光振興推進体制の強化について

(小島) DMOの設立に向けた取組について。

(市長) コロナ沈静化後、先進地視察を実施し、DMOのメリット・デメリット、成功例・失敗例などのような形が対馬に合っているか、導入の是非を研究したい。

(小島) 本件は3年前から一般質問を3回行った。行政の対応が見えない。答弁後「議会答弁等事案対応経過報告」で議会に周知すべきである。

(小島) 観光物産協会に執行権限がある常勤の理事を配置すべきでは。

(市長) 昨年度から専務理事が欠けている。観光物産協会のスムーズな事業執行及びイレギュラーな場面での臨機応変な対応を取る上で、常勤理事等の配置は重要。観光物産協会と協議する。

(小島) 文化財を有効活用し地域振興に役立てるため、文化財保護行政を教育委員会から市長部局に移管すべきでは。

(市長) 従来どおり、文化財の保存・保護は文化財課が、活用は市長部局が所管し、今まで以上に連携を強化し地域振興に取り組む。

(小島) 「活用なくして保存なし」と言われる。先進地等を調査し、市長部局に一体化、地域振興に役立てる研究を進めるべき。

◆主要地方道「厳原豆酸美津島線」の加志(箕形)区間の改良について

(小島) 地域の命と生活を支えるライフ・ロードである。早期着工・完成が待たれる。

(市長) トンネル坑口付近に地滑り箇所があり、ルートを見直したことで進捗が遅れている。今年度、地質調査、設計委託等を実施。現時点での工事の着手は令和3年度からを予定、完成は令和8年度を見込んでいる。



小宮 教義議員

◆新型コロナウイルスの感染対策等について

(小宮) 対馬市で感染者が確認されたが、市の感染対策の体制について伺う。

(市長) 新型コロナウイルス感染症対策は、全庁的な危機管理の問題として、国、県、関係機関等との連携を図り、一体となった取組を行う必要がある。このため、市長を本部長、副市長及び教育長を副本部長、各部長等を本部長とする対策本部を設置し、全庁一体となった対策の総合的推進に取り組んでいる。

◆沖合底引き網漁業について

(小宮) 8月18日付長崎新聞で「厳原町佐須沖で底曳船団が漁獲した稚魚を含むアカムツを海上投棄」市としての対策はとれないのか。

(市長) 本件は操業自体に違法性はなく、操業自粛にも賛同、協力していただいている沖合底引船団の操業事案であり、あくまでも操業モラルの範疇というデリケートな問題であると思われる。対馬市としても、推進している海洋保護区の設定と密接に関連する事案であることから、漁協組合長会と連携を図りながら、今後のスムーズな操業秩序の確立に向けて取り組んでいきたい。



大部 初幸議員

◆運賃輸送コスト補助金の支払について

(大部) 現在、3か月分の運送費に係る補助金が翌月に交付されているが、

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で水産業を含め全ての業種が苦しんでいる。運送等による負担が少しでも軽くなるように、1か月早めて2か月分で補助金が交付できないか伺う。

(市長) 補助金の交付時期を現在の3か月から2か月に短縮することについては、農林水産物及び水産加工品等も含めて、今後調整が必要なことから、各事業所等の現状や要望等を聞きながら、漁協組合長会とも協議し必要な対応を講じていきたい。

◆対馬島内の海水浴場のトイレとシャワールームについて

(大部) 海水浴場には簡易水洗のトイレはあるが、高齢者や身体の不自由な人にも対応できるよう、洋式トイレの設置を検討いただきたい。また、シャワールームについても腰掛等の設置等の整備ができないか伺う。

(市長) 施設の改善に向け、高齢者や身体が不自由な方々に配慮したトイレの洋式化について検討を進めていきたい。また、シャワールームの腰掛等の設置についても、島内海水浴場のシャワールームを調査し、前向きに検討していきたい。



坂本 充弘議員

◆市街地における道路脇側溝の清掃について

(坂本) 側溝に土が溜まり雑草が生えている。景觀も悪い。もう少し早い周期で清掃できないか。

(市長) 市街地は市民に最も身近な生活空間であり、景觀の美化を図ることは観光振興には極めて重要である。管理者の県に除草等の対応をお願いするが、行政だけで全てを処理し続けることは厳しい。今後は地域と連携した対応を進めていく。

◆バスと飛行機のアクセスについて

(坂本) 3月29日から福岡1便が10分早くなり比田勝発のバス利用者が搭乗できなかった。バスと飛行機のアクセス調整が必要では。

(市長) バスの出発時刻変更及び福岡便の出発時刻変更の両面から関係者への要望や協議を行い、善処したい。

◆新型コロナウイルス感染症に係る児童生徒の今後の予防策について

(坂本) 学校内での運動会及び修学旅行への対応についての予防策は。

(教育長) 運動会は、三密回避の会場作りや種目の工夫、種目減による時短、参観者の制限やマスク着用の徹底等、各校の実態に応じた予防策を講じ実施する。修学旅行は、目的地や市内の感染状況を把握した上で、保護者の希望や意見を十分聞き、各校で判断していく。子どもの命と健康を最優先に考え、実施の際は、三密の回避、見学地、宿泊先、車内等に応じた予防策を講じ実施する。



春田 新一議員

◆市民協働型まちづくりを目指した取組について

(春田) 地域マネージャー制度の事業と今後について伺う。

(市長) 課題を整理し、原点に立ち戻り事業に取り組んでいく。この事業を地域が理解していない部分もある。マネージャーは努力をしていると思う。

(春田) この事業を踏まえて安心安全の地域づくりの取組について伺う。

(市長) 総合計画、地域づくり計画を基本にどの地域も取り残すことなく、平等に柔軟性をもつて進めていく。

◆教育行政について

(春田) 比田勝こども園施設の安全、安心策について、最近の豪雨、台風のあとには、園の山側から土砂が園庭や出入り口に流失している。どのような対策を考えているか。

(教育長) 今年度、園庭周りの土砂流入を防ぐ工事を計画している。また、県の事業も見据えながら駐車場付近の流入対策も計画していく。

(春田) 全島の社会体育施設の利用状況と今後について、体育館では10施設の内、9施設が雨漏りをしているが、その対応について伺う。

(教育長) 状況を見据えて雨漏りがひどい所を優先に修理していく。社会体育施設に限らず教育施設も同様に対応していく。

(春田) 総合運動公園は利用されている所と、利用がされていない所があるが、利用状況を踏まえ改善改修の中長期的な計画は策定されているか伺う。

(教育長) 旧町時代に建設された施設で、その当時は若者が多く利用していたが、今では人口減少で活用が少ない所もある。中長期的な計画は策定していないが、今後においては統廃合も含めて検討し計画を進めていく。



長郷 泰二議員

◆新型コロナウイルス感染症と経済について

(長郷) 新型コロナウイルス感染症は、現在の生産者の倒産、廃業、失業を食い止める生産力を守ることを重要である。感染症防止と経済を両立させるため、市において生活検査目的のPCR検査ができる施設機能を整備する考えはないか伺う。

(市長) PCR検査は県の役割で行われている。生活検査については、県と協議する必要がある。

(長郷) スティホームの時代において物流の在り方も再構築する必要があると考える。また、本市の水産物販売促進支援事業費補助金の活用はどのように取り組まれているのか伺う。

(市長) 水産物にあつては、県内4市町においてインターネット販売に着手している。お尋ねの事業費補助金については検討する必要がある。

(長郷) 国の対象とならない真珠養殖事業者への融資に対する利子補給を行う考えはないか伺う。また、市のアコヤ貝種苗購入補助金交付要綱では対馬栽培漁業振興公社の稚貝のみが対象となっており民間事業者もその対象とすべきと考ええるがいかがか。

(市長) 真珠養殖事業者への利子補給は対応する方向で検討していく。稚貝については公社の理事会において協議していきたい。

(長郷) 現在実施されている帰省客特典事業は、なぜこのタイミングで実施されているのか伺う。

(市長) この事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている一次産業の支援と対馬産品のPR・消費拡大を狙って実施している。利用率が低いため、正月まで実施期間を延伸したいと考えている。

(長郷) コロナウイルス感染症に対する正確な情報はどのような方法で周知されているか伺う。

(市長) 市のホームページによる情報発信、また、CATV、広報紙、防災行政無線などを活用し理解をお願いしている。



大浦 孝司議員

◆国指定特別史跡「金田城」の石塁崩壊箇所の修復について

(大浦) 蔵の内登山道より山頂へ向かう途中、分岐点付近(南門東南角石塁)の石塁が3か所にわたり約40m程度崩れ無残な姿を最近確認した。なぜ、現在まで放置しているのか復元の可能性はないのか尋ねる。

(教育長) 崩壊は数百年は経過しているものと思われる。修復について過去に協議され現状のまま見せるという学者等の意見もあり対応するに至っていない。

(大浦) 最初に見たのは昭和46年だが現在のような崩れた現場に記憶はない。県の係官に尋ねたところ「文化庁、県、市と協議することから始まる。出来ないことはない。」との回答であり、多額の費用が掛かるとのことであった。金田城を核とする観光プロジェクトが浮上している。NHK「日本最強の城」スペシャルで最強の城に選ばれており今後の期待は大きい。

◆対馬海洋保護区(しまつみ)管理計画について
(大浦) 対馬海洋保護区管理計画について基本的考えを尋ねる。

(市長) 正直申し上げて沖合での保護区の取組は容易なことではない。まずは沿岸の磯焼け対策から進めていきたい。現在は食害魚、ガンガゼ等の駆除の促進、海藻の増殖を進めるよう計画している。

(大浦) 今回の質問はアカムツの底引き網漁船の新聞記事により行ったものであるが、組合長会により保護区の拡大、期間の延長、稚魚を逃がすための網目の拡大を山口県の関連漁協へ提案する方針を確認したとのことであるが、実現に共に連携していくことが重要であり、この事こそ本来市が唱えている保護区の設定と思う。

所管事務調査報告

常任委員会では、条例案その他議案の立案のためや問題点のある事務の改善を究明するため自主的にテーマを設定し、調査を行うことが出来ます。調査結果については、報告書を議長に提出し、本会議において報告します。今定例会においては次のとおり調査報告がされました。

総務文教常任委員会

委員長 坂本 充弘

本委員会は、令和2年7月22日、対馬市立厳原小学校において、校舎の現状について調査を行いました。

厳原小学校は、昭和38年の建築で、築後57年が経過し、対馬で最も古い校舎であります。校舎は老朽化が著しく、ひびが入っている箇所や2階の軒からコンクリート片が落ちていたり、ろがあり、児童に危険な状態であることから、調査と対策など今後の対応について協議しました。また、外廊下となっているため、設計の古さを痛感しました。体育館は、雨漏りにより屋根内側の鉄骨が錆びている箇所が見受けられ、照明が何灯も切れており、照明の電球交換には足場を組む必要があり、簡単には交換できないとのことでした。

次に、教育委員会事務局から「市立小中学校の統合計画と問題点について」、「市立小中学校の改修計画(建替を含む)」について説明を受けました。



説明を受ける総務文教常任委員(厳原小学校)

学校の適正化・適正配置については、行政が一方的に進めるべきものではないことから、保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得る学校づくりの視点を踏まえた丁寧な協議を行い、保護者や地域住民と共通理解を図っているとのことでした。対馬市は平成27年度に島内の小中学校の耐震補強工事が完了し、全ての耐震基準を満たしています。熱中症対策の空調設備整備事業については、令和元年度末で全ての小中学校で設置が完了しています。また、対馬市公共施設等総合管理計画に基づき、施設の建替や大規模改修、施設規模の拡大、施設を延命していく改修をしていくという説明でした。

委員から、校舎の施設更新については、計画性をもって対処していただきたいという意見がありました。

■厚生常任委員会

委員長 伊原 徹

本委員会は、令和2年8月4日、佐賀、三根、豊玉南保育所における入所児童数及び保育士の充足率等について、また、地域循環システム推進事業（生ごみ）の今後の展開について所管事務調査を行いました。



危険箇所を確認する総務文教常任委員（厳原小学校 校内）

佐賀保育所は、定員40人に対し、入所児童数50人、必要保育士数は5・5人であり、現在、保育士は5人が常勤しています。受入れ児童数に対して、保育室が不足していることから、現在、遊戯室を保育室と兼用し利用している状況であります。

三根保育所は、定員40人に対し、入所児童数22人、必要保育士数は2・46人であり、現在、保育士は3人が常勤しています。施設の老朽化に伴う室内の壁のひび割れ等により、雨漏りが発生している状況であります。

豊玉南保育所は、定員40人に対し、入所児童数50人、必要保育指数は6・45人であり、現在、保育士は6人が常勤しています。当施設の中央部にある遊戯室にはエアコンが設置されていないことから、児童のトイレ、手洗いの際など、保育室を開閉するたびに部屋の温度が大きく変化する状況であります。

委員から、遊戯室を保育室と兼用している状況について、児童にとって遊戯室本来の利用ができるよう、早急に解決すべき必要があること、また、エアコンの未設置についても児童の体調管理に影響することから、建替え等も含め早急に対応すべきとの意見に対し、担当部から、市内の保育所について新たな配置計画を策定予定であり、その中で見直しをしていく予定であるとの説明がありました。施設の状況及び保育士の十分な確保も含めて、利用する児童の現状に合わせた配置計画を検討してほしい旨の意見が委員から併せてありました。

生ごみ等資源再利用については、令和元年度

の協力世帯数は2010世帯、生ごみ回収量は358トンであり、同じく令和元年度に実施した生ごみアンケート調査結果の検証を踏まえ、生ごみの出し方、生ごみ専用ステーションの設置、回収方法について、更なる協力世帯の増加と生ごみの再資源化による環境意識の啓発に向けて検討しているとの説明がありました。今後、生ごみの分別回収に関しては、市民の分別意識やリサイクル意識について、効率的に促進するための方策を打ち出していくことを望むものであります。



説明を受ける厚生常任委員（生ごみ等堆肥化施設前）

地方税財源の確保を－意見書を国へ提出－

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し、地域の実情に応じた行政サービスを安定的に提供するため、地方税・地方交付税等の一般財源総額の確保を強く国に求めるため、令和2年9月18日の定例会本会議において意見書の提出を採択・可決し、衆参両院議長及び内閣総理大臣をはじめとする関係閣僚へ提出しました。

意見書の内容

- 1 地方の安定的な財政運営に必要な地方税、地方交付税などの一般財源総額を確保すること。その際、臨時財政対策債が累積することのないよう、発行額の縮減に努めるとともに、償還財源を確保すること。
- 2 地方交付税については、引き続き財源保障機能と財源調整機能の両機能が適切に発揮できるよう総額を確保すること。
- 3 令和2年度の地方税収が大幅に減収となることが予想されることから、思い切った減収補填措置を講じるとともに、減収補填債の対象となる科目についても、地方消費税を含め弾力的に対応すること。
- 4 税源の偏在性が小さく、税収が安定的な地方税体系の構築に努めるとともに、国税・地方税の政策税制については、積極的な整理合理化を図り、新設・拡充・継続に当たっては、有効性・緊急性を厳格に判断すること。
- 5 とりわけ、固定資産税は、市町村の極めて重要な基幹税であり、制度の根幹に影響する見直しは、土地・家屋・償却資産を問わず、断じて行わないこと。先の緊急経済対策として講じた特例措置は、臨時・異例の措置として、やむを得ないものであったが、本来国庫補助金などにより対応すべきものである。よって、今回限りの措置とし、期限の到来をもって確実に終了すること。

市民との対話集会(議会報告会)中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の議会報告会は中止いたします。

編集後記

今年は、日韓関係の悪化と相まって、新型コロナウイルス感染症問題が起こり、連日感染者の報道があつています。

7月には大雨災害により河川が増水、犠牲者が出てしまいました。お亡くなりになられました方に心からご冥福をお祈りいたします。また、9月の台風9号及び台風10号の直撃により、甚大な暴風被害が出ています。被災されました皆様に心からお見舞いを申し上げます。被災政治の面では、8月下旬、安倍晋三首相が体調悪化により首相辞意を表明、2012年12月の第2次内閣発足から7年8カ月で幕を閉じることとなりました。その後、菅官房長官が自民党総裁に選任され、9月16日午後衆参両院本会議での首相指名選挙で第99代首相に選出され、同夜菅内閣が発足しました。最優先課題は「コロナ対策、感染拡大防止と経済の両立」に全力を挙げる考えを示されています。予定されていた東京オリンピック・パラリンピックも来年に延期となりましたが、1日も早く全世界で終息し、予定通り開催されてほしいものです。

「令和2年」も残り少なくなってきました。来年は災害のない年となりますよう願うばかりです。

「議会だより」もちょうど10号目。今後も市民皆様からご愛読いただけるよう努力してまいります。

(文責：坂本充弘)



議会広報編集特別委員会

【委員長】小島徳重 【副委員長】坂本充弘
【委員】小宮教義・大浦孝司